

今週の為替相場見通し(2016年11月14日)

総括表		先週の値動き		今週の予想レンジ
		注	レンジ	
米ドル	(円)		101.19 ~ 106.95	104.00 ~ 108.00
ユーロ	(ドル)		1.0831 ~ 1.1300	1.0750 ~ 1.1100
(1ユーロ=)	(円)		113.78 ~ 116.57	115.00 ~ 117.00
英ポンド	(ドル)		1.2352 ~ 1.2673	1.2450 ~ 1.2700
(1英ポンド=)	(円)	*	126.72 ~ 134.92	133.00 ~ 137.15
豪ドル	(ドル)		0.7525 ~ 0.7778	0.7500 ~ 0.7700
(1豪ドル=)	(円)	*	76.79 ~ 82.46	79.00 ~ 82.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 森谷 友一

(1) 今週の予想レンジ: 104.00 ~ 108.00 円

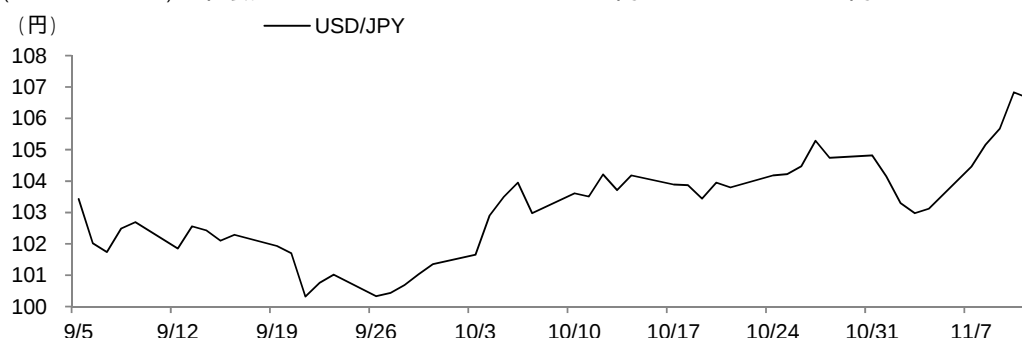
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週半ばに急落するも、その後急反発する展開。週初7日に103円台前半でオープン。クリントン氏の私用メール問題について訴追を求めないとFBIが米議会に伝えたことが報じられるとリスク回避ムードが和らぎ、ドル/円は104円台前半まで上昇。世界的な株高を背景にドル/円は104円台での底堅い推移が継続した。8日はクリントン氏優位との見方が強まる中、ドル買い地合いが継続し105円台まで上昇する展開となった。9日はクリントン氏勝利との観測が広がる中、ドル/円は105円台半ばまで上昇するも、開票が進むに連れてトランプ氏の勝利が意識されドル売りが強まると103円台前半まで急落。その後もトランプ氏優勢との報道にドル売りが一段と強まり一時週安値となる101.19まで下落した。しかし、海外時間に入るとトランプ次期大統領の経済政策への期待感などから米金利が急騰すると、ドル/円もストップロスを巻き込みながら105円台後半まで急反発。10日にかけてもドル買い地合いが継続する中、世界的な株高も材料視され一時106.95まで上昇した。11日は利益確定などによる売りが強まり106円台前半まで下落する局面も見られたが、良好な米11月ミシガン大学消費者信頼感の結果が発表されるとドル買いが強まり、106円台後半で越週した。

今週のドル/円相場は底堅い推移を予想。米大統領選挙では大方の予想に反してトランプ氏が勝利し、同氏が掲げる大型財政出動や大型減税への期待感などから米金利が上昇し、ドル買いが強まった。トランプ氏の勝利により米国政治・経済の先行きに対する不透明感は増大したと考えられるが、ひとまず不安よりも期待感が先行した格好となったと言えるだろう。トランプ次期大統領の政策への不透明感は直ぐに払拭されるものではないだろうが、勝利宣言では過激な発言は見られず、現実路線にスタンスを移す様子が窺えることから「トランプ・リスク」が意識されて急激にリスクセンチメントが悪化することは想定しづらい状況。また、今週は15日(火)に米10月小売売上高、17日(木)には米10月消費者物価指数(CPI)、イエレンFRB議長の講演が控えているが、よほど失望的な内容とならない限りは12月FOMCでの利上げ期待は高止まりすると考えられ、ドル/円をサポートする材料となり得るだろう。今後の米国政治・経済に対する不透明感が意識される中、大統領選挙前後からの荒い値動きが続くことが想定され思わぬ値動きには警戒が必要だが、基本的には先週の流れを引き継ぎ底堅い推移になると予想する。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/7~11/11)の値動き: 安値 101.19 円 高値 106.95 円 終値 106.69 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

為替営業第二チーム 坂本 真史

(1) 今週の予想レンジ: 1.0750 ~ 1.1100 115.00 ~ 117.00 円

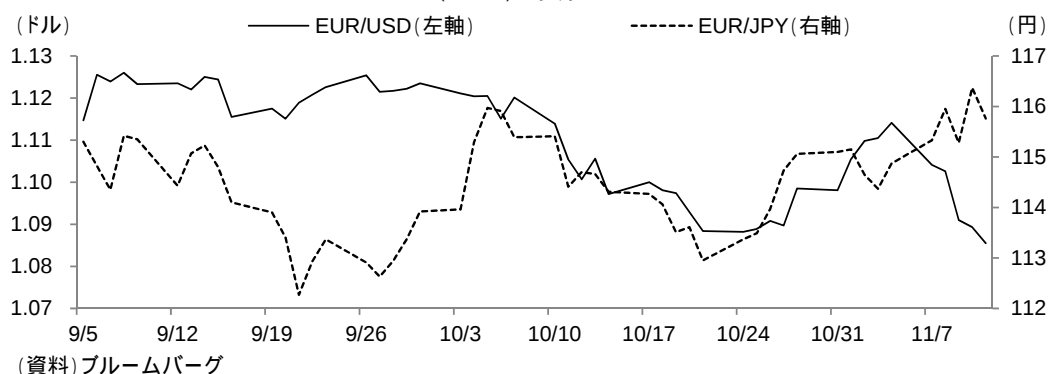
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ相場は、対ドルでは上下に大きな振幅を伴って下落する展開、対円では小幅上昇する展開となった。対ドルは、週初7日に1.11ちょうど近辺でオープン。FRB長官がクリントン氏の私用メール問題で訴追を求めないと発言したことや、世論調査でクリントン氏がトランプ氏をリードしていたことを背景にドル買い地合いとなり、1.10台前半まで下落。翌8日は、米大統領選の投票日であり、様子見ムードから1.10台でレンジ推移。週中9日、米大統領選の開票が進み序盤こそ概ね想定通りの結果に、クリントン氏の勝利を予想する向きが広がり、1.09台後半までドル買いが進む。しかし、その後、想定以上に接戦となったことから、トランプ氏勝利を警戒してドル売り優勢となる。更に重要とされていた複数の州でトランプ氏の勝利と報じられるとドル売りが加速し、週高値となる1.1300まで大きく上昇。だが、海外時間に入ると相場は一変。米大統領選と同時に終わった米上下両院選で両院とも共和党が勝利し米政治のねじれが解消されたことや、トランプ氏が財政出動や大型減税を行えば米景気が押し上げられ、ひいては米国は利上げを行えるとの期待から、株高債券安のリスクオンとなり1.09台前半まで下落。翌10日、一旦はユーロ買いも入って1.09台半ばまで上昇する局面もあったものの、米金利が上昇する中ドル買いが進み、1.08台半ばまで下落。週末11日もこの流れが継続し週安値1.0831をつけた後、1.08台半ばで越週した。一方、対円は週初115円台半ばでオープン。週中9日にトランプ氏優勢と伝わってリスクオフの動きから週安値113.78円をつける。しかし、その後ドル買いが進んでドル/円が上昇する中、ユーロ/円もじりじりと上昇。10日に週高値116.57円をつけた後、115円台後半まで戻して越週した。

今週のユーロ相場は、先週後半に見られた急速なドル高の動きが一服する中、方向感を探る展開となるだろう。米大統領選の結果は事前予想を覆すもので、市場は大きく振幅した。当初は保護主義的な政策を掲げるトランプ氏が勝利するとリスクオフ相場になると目されていたが、蓋を開けてみれば正反対の相場展開になっている。確かに大型減税や財政出動は景気底上げが期待されるものの、為替相場についてトランプ氏はこれまでドル高をけん制してきた。従って、市場はドル高に対してネガティブな人物としてトランプ氏を捉えていたが、実際のところは不透明な部分が多い。自身の勝利によりドルが大幅に上昇していること両手を挙げて喜んでいいるとは考えにくいなかで、トランプ氏や同陣営からの政策内容に対するコメントに注目が集まる時間が続きそうだ。斯かる状況下、急速に進んだドル買いも、一旦は方向感を探るべく穏やかな値動きに回帰し、ポジション調整などからユーロが堅調に推移する局面も訪れるだろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/7～11/11)の値動き: (対ドル) 安値 1.0831 高値 1.1300 終値 1.0856
(対円) 安値 113.78 高値 116.57 終値 115.85



3. 英ポンド

欧州資金部 近藤 敏樹

(1) 今週の予想レンジ: 1.2450 ~ 1.2700 133.00 ~ 137.15 円

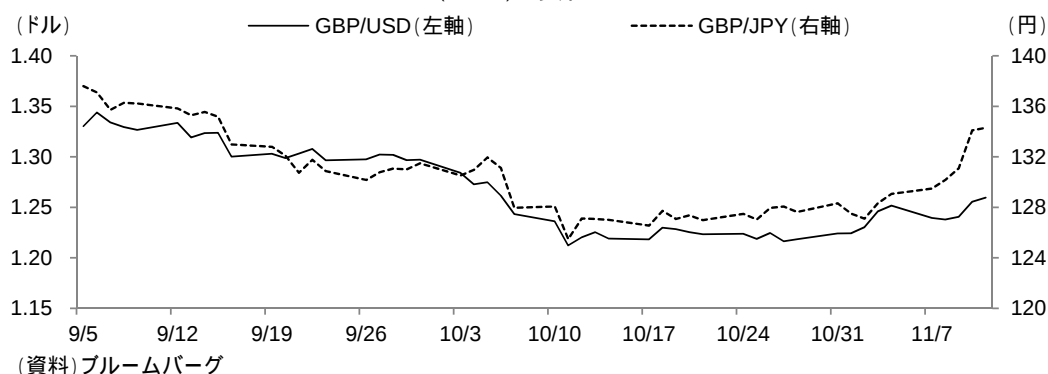
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は対ドル、対円で大きく上昇する展開となった。週初7日は、先々週末に発表された民主党ヒラリー候補の電子メール疑惑に関し、FBIが訴追見送り方針との報道を受け急速なドル買いとなる中、英ポンドは対ドルで1.24割れまで下落もその後は特段材料に乏しく1.24を中心とした一進一退の動き。8日発表の英9月鉱工業生産・製造業生産は強弱入り交る結果となったため材料視されず、注目イベントである米大統領選挙を控え1.24台を中心としたレンジ推移が継続。その後9日にかけて米大統領選挙の開票が進み、徐々にトランプ氏優勢が伝わりリスクオフとなる中、英ポンドは対ドルで大きく上昇し1.2550手前まで上値を拡大。しかしその流れは続かず、株高・債券安の流れとなり強烈にドルが買い戻される展開となると、英ポンドは対ドルで急速に値を戻し、再び1.24割れまで下落。翌10日全体的なドル買い地合いながら、英国国家統計局が2017年3月より住宅取得価格にかかるコストをCPIに反映させるとの発表を実施したことを好感、更には英ポンド円の買いにもサポートされ対ドルで1.25台半ばを回復。翌11日の英ポンドは10月7日のフラッシュクラッシュ当日高値水準を回復、ストップを巻き込みながら1.26台半ばまで上昇。しかし買いは続かず、その後特段材料の無い中ドル買いに押されジリジリと下落、1.25台半ばまで戻し、1.26近辺で越週した。

今週の英ポンド相場は、米ドルに振られる時間帯があるもレンジ内での推移を予想する。今月3日の英金融政策決定会合では、予想以上に底堅い景気実態を反映し、「年末までに基準金利0%近傍」という従来のガイダンスを撤回したことは中銀の英経済への大きな自信とも受け取れ、現状底堅く推移している住宅価格も含め大きなサポート材料となろう。一方で、英国EU離脱にかかるロードマップは裁判所の判断も含めあまりにも不透明感が強い(あるブックメーカーのオッズでは50条発動回避が4割以上を示唆)。従って、積極的に英ポンドを買う向きも限られそうで、ショートカバーを誘発しながら上昇する局面は想定されるものの、1.30を目指す展開にはならないだろう。既に先週11日には10月7日に起こったフラッシュクラッシュ当日高値まで戻したことも勘案すれば、上昇余地は限定的ではないだろうか。先週は米大統領選挙一色のドルを中心とした値動きだったが、今後徐々に明らかになってくるであろう米新政権の具体的施策等を受け、引き続きドルを中心としたボラティルな展開も想定される。今週は14日(月)英11月ライトムーブ住宅価格指数、15日(火)英10月消費者物価指数、10月小売物価指数、16日(水)9月労働関連指標(平均賃金・失業率・雇用者数増減)、17日(木)10月小売売上高等注目指標が多く、前月発表の英7~9月期GDP同様に底堅い数字が発表されれば、もう一段の上昇の可能性も有り、英ポンド主導の値動きとなる時間帯も相応にありそうだ。米次期大統領誕生については、財政政策・規制緩和等現状好感を持って受け止められているようであり、逃避通貨である円買いが起こる可能性は高くないだろう。堅調推移のドル円相場を勘案すれば英ポンドは対円では今週も底堅く推移するのでは無いだろうか。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/7~11/11)の値動き: (対ドル) 安値 1.2352 高値 1.2673 終値 1.2597
(対円) 安値 126.72 高値 134.92 終値 134.31



4. 豪ドル

為替営業第二チーム 島田 貴章

(1) 今週の予想レンジ: 0.7500 ~ 0.7700 79.00 ~ 82.00 円

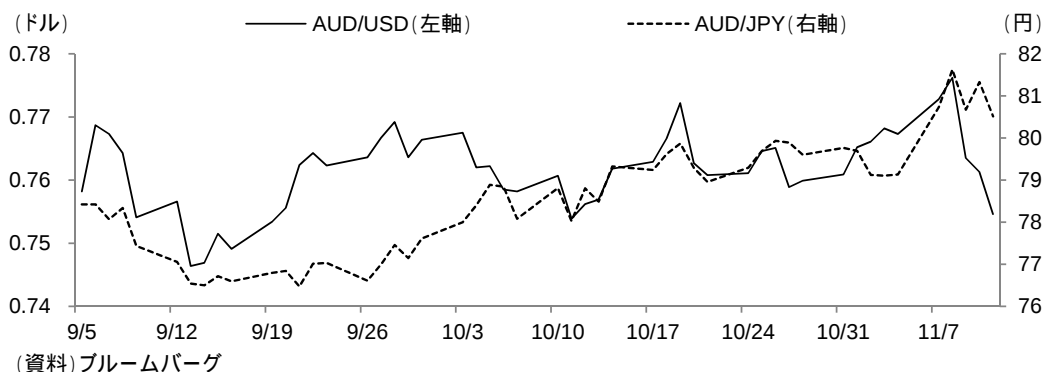
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は、米大統領選結果を受けてボラティルな展開。週初7日、豪ドルは対ドル0.76台後半にてオープン。クリントン候補の私用メール問題についてFRBが訴追を見送るとの報道を受け、金融市場はリスクオンで反応。豪ドル相場も連れ高となり0.77台後半まで上昇した。翌8日、米大統領選においてクリントン候補が優勢との報道を受け、リスクオン地合いが継続し豪ドル相場は続伸。週高値となる0.7778をつけた。週央9日、アジア時間には米大統領選の各地域投票結果が順次公表される中、トランプ候補の善戦を受けて、金融市場はリスクオフに反応し、豪ドル相場は下落。更に同候補の勝利が確定的となると、0.75台後半まで値を下げた。一方で欧米時間では、トランプ新大統領の財政出動・大型減税政策による景気押し上げ期待から米株式・長期金利が上昇。金融市場はリスクオン方向の動きとなり、豪ドル相場は0.76台半ばまで水準を戻した。翌10日、前日の流れを引き継ぎ豪ドル相場は一時0.77台前半まで上昇。しかしながらその後は米長期金利が上昇する中でドル高の動きとなり、豪ドル相場は0.75台後半まで値を下げた。週末11日、米国休場の中でドル高の展開は継続し、豪ドル相場は週安値となる0.7525まで下落した後、0.75台半ばで越週した。一方、対円では週初7日に79円台前半にてオープン。週前半は対ドル同様底堅く推移し、8日に81円台後半まで上昇。週央9日、米大統領選結果を受けたリスクオフ相場の中で週安値76.79円まで下落。その後は対ドル同様に上昇する展開となり、10日に週高値82.46円まで上昇。その後はドル高主導の展開となったことから豪ドル/円相場は揉み合いとなり、週末11日に80円台半ば近辺にて越週した。

今週の豪ドル相場は底堅い展開を予想する。足許の金融市場は米大統領選におけるトランプ候補勝利の結果を受け大きく変動を見せたものの、当材料を完全には消化しきれていない状況であろう。今後の動向はトランプ新大統領が掲げた公約が最終的にどのような形で実現・決着するか、という点を予測しながら探ることになる。斯かる状況下での来週の展開であるが、経済指標などの材料に乏しい中で、先週における急速なドル買いの巻き戻しがやや入りやすい展開を予想する。財政出動・大型減税政策を見込んだ米長期金利上昇が足許のドル高相場のメインドライバーであったわけであるが、選挙戦が終わった本タイミングで政策に関する詳細内容が出てくるとは考え難い。米10年債利回りは先週2.1%台まで上昇したものの、テクニカル的に2.2%近傍で上昇が一旦止められる可能性は高いと考えられる。米長期金利上昇が一服する中でドル高相場も小康状態となり、利食いの先行から相場は戻りを試す可能性が高いと予想する。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/7 ~ 11/11)の値動き: (対ドル) 安値 0.7525 高値 0.7778 終値 0.7544
(対円) 安値 76.79 高値 82.46 終値 80.52



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。